

令和の大修理 薬王院本堂

— 国重要文化財薬王院本堂保存修理事業のあゆみ —

第4号

工事進捗状況

令和6年3月から令和6年5月にかけての修理現場の様子を紹介します。

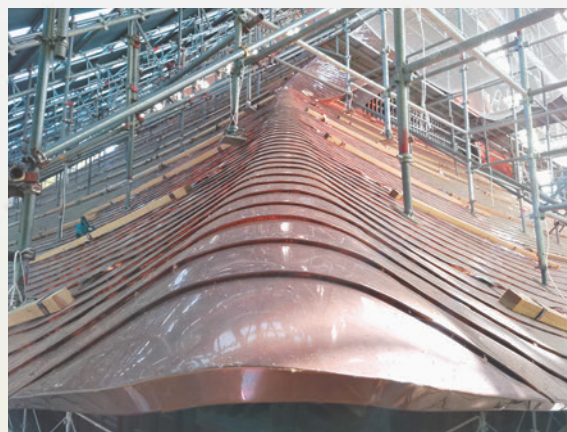
銅板^{ひらぶき}平葺

今回の修理工事のメインとも言える平葺の工程は、完成目前となっています。銅板がきれいに並べられていますが、近くでよく見ると表面がまだでこぼこしています。今後は、本堂を覆っている素屋根を解体し、本堂屋根面に乗っている足場材が撤去され次第、銅板全面を叩いてなめらかにしていきます。



隅背^{すみせ}銅板葺

屋根の四隅から中心に向かって盛り上がる曲線部分を隅背と言います。2面の平葺がぶつかる部分で、この隅背を頂点として、平葺は美しいカーブを描き出しています。隅背自体もゆるやかなアールになっており、木下地の形に合わせて1枚ずつ形を変えて加工した銅板を葺き、完成させました。



◆このパンフレットは国・茨城県・水戸市の補助を受けて実施中の保存修理事業の一環として作成しています

のき づけ

軒付銅板葺

薬王院本堂の特徴の一つである大きく張り出した軒の裏（軒付）には銅板が葺かれ、下から見上げた時、屋根の重厚感がしっかりと感じられる仕上がりとなりました。遠目に見ると、建物の高さや幅にばかり目が行きがちですが、屋根職人の技術が詰め込まれているこの軒付も、ぜひ注目していただきたい部分です。



構造補強工事

文化財修理の現場では、修理に合わせて構造診断（耐震診断）を行い、必要に応じて補強を行います。薬王院本堂でも必要性が認められたため、柱の床下部分に木製方杖（斜め材）の補強材を取り付けました。文化財の規制上、既存部材に直接固定することは不適切であるため、補強材は建物から独立し、動揺時に柱と地面の間で突っ張って建物を支えます。



連続コラム ココに注目！薬王院修理 Vol. 4

本堂の構造補強

本事業では修理工事に先立ち、本堂の耐震診断を行いました。薬王院は、東茨城台地の上にあり地盤条件は良好で、耐震診断の結果、本堂は大地震（震度6程度）に対しては倒壊を免れると推定されました。ただ屋根形状が大きいので、稀に発生する暴風（10分間平均風速32m/秒以上）に対しては倒壊の可能性があることが分かりました。そこで今回の修理工事に合わせて、補強のために床下に木製の方杖（斜め材）を入れる補強工事を行いました。補強材の取付には、古い部材を傷付けないような工夫をしています。

構造担当 公益財団法人文化財建造物保存技術協会 鈴木 律

